

発達の特徴と痛みへの対処法

子どもの認知発達の特徴

ピアジェの認知発達論	言語理解・精神発達の特徴	心理的準備の方法(例)															
<table border="1"> <tr> <th>年齢</th> <th>認知段階</th> <th>主な特徴</th> </tr> <tr> <td>0~2歳</td> <td>感覚運動知能の時期</td> <td>対象に認知を感覚と運動を通じて行い、次第に行為の及ぼす働きに気がつき意図的な働きかけになる。</td> </tr> <tr> <td>2~7歳</td> <td>前操作の時期</td> <td>何かを別のものによって表現する「ごっこ遊び」など象徴作用、空想的・魔術的思考が現れる。思考は自分中心で他人の立場や見方はわからない。</td> </tr> <tr> <td>7~12歳</td> <td>具体的操作の時期</td> <td>同じ大きさのものは形を変えても元に戻せば同じであるという可逆的操作や自分中心の思考から脱し、論理的推論も可能になる。</td> </tr> <tr> <td>12~14歳</td> <td>形式的操作の時期</td> <td>「もし~ならば、~であるだろう」といった仮説演繹的思考や物事を何かに例える形式的・抽象的な思考が可能になる。</td> </tr> </table>	年齢	認知段階	主な特徴	0~2歳	感覚運動知能の時期	対象に認知を感覚と運動を通じて行い、次第に行為の及ぼす働きに気がつき意図的な働きかけになる。	2~7歳	前操作の時期	何かを別のものによって表現する「ごっこ遊び」など象徴作用、空想的・魔術的思考が現れる。思考は自分中心で他人の立場や見方はわからない。	7~12歳	具体的操作の時期	同じ大きさのものは形を変えても元に戻せば同じであるという可逆的操作や自分中心の思考から脱し、論理的推論も可能になる。	12~14歳	形式的操作の時期	「もし~ならば、~であるだろう」といった仮説演繹的思考や物事を何かに例える形式的・抽象的な思考が可能になる。	<p>6か月 記憶力・注意力が発達する</p> <p>8~9か月 物を探す⇒記憶力が発達する</p> <p>1歳 1週間前のことを覚えている 「バイバイ」と言うと手を振る 「おいて」「ねんね」がわかる</p> <p>1歳半 簡単な命令を実行する「~をもってきてね」</p> <p>3歳 長い短い、高い低い、大小や上下がわかる 物の形がわかる 過去や未来の意識が生じる 10~15分注意を継続</p> <p>3~4歳 3~5つまでの数がわかる 左右がわかる 数字や文字を弁別 1年以上前のことでも覚えている 「眠り=死」「病氣=罰」と認識することがある</p> <p>5~6歳 などをぞをする 絵本の字を意味が通じるように読む 今日の曜日がわかる、午前・午後、月と年を理解 サイコロの数や10以内の数を自在に扱う</p> <p>7歳 日付や時計の針を理解して正しく読む 漫画の本を自分で理解して見る 幼児語を使わなくなる</p>	<p>感覚に働きかける道具の活用 (音の出る玩具や色鮮やかな目を引くもので気をそらす) わかりやすい言葉に置き換えて説明 「ばい菌マンをやっつけよう」</p> <p>どうやるかを人形を使って見せたり、予行演習したりする</p> <p>「眠っている間に終わる」だけでなく「必ず目覚めて病室へ戻ってお母さん、お父さんに会えるよ」まで伝える</p> <p>待つ必要がある場合は時間を決めて待つ(時計の針を示す)</p> <p>具体的な物(移送用ベッド、手術着、酸素マスク等の実物)を見せる 理解度に応じて検査や処置の必要性を伝える</p> <p>自発的な意思の表明を促す 具体的な日時を伝える 実際に使用するものや場所を見せる</p>
年齢	認知段階	主な特徴															
0~2歳	感覚運動知能の時期	対象に認知を感覚と運動を通じて行い、次第に行為の及ぼす働きに気がつき意図的な働きかけになる。															
2~7歳	前操作の時期	何かを別のものによって表現する「ごっこ遊び」など象徴作用、空想的・魔術的思考が現れる。思考は自分中心で他人の立場や見方はわからない。															
7~12歳	具体的操作の時期	同じ大きさのものは形を変えても元に戻せば同じであるという可逆的操作や自分中心の思考から脱し、論理的推論も可能になる。															
12~14歳	形式的操作の時期	「もし~ならば、~であるだろう」といった仮説演繹的思考や物事を何かに例える形式的・抽象的な思考が可能になる。															

痛みの理解

「組織の実質的あるいは潜在的な損傷を伴い、このような障害を表す言葉を使って述べられる不快な感覚・情動体験」

(世界疼痛学会用語委員会、1994)

「痛みとは、体験している人が伝えるところのものであり、その人が痛いというときに必ず存在する」

(McCaffery, M., 1979)

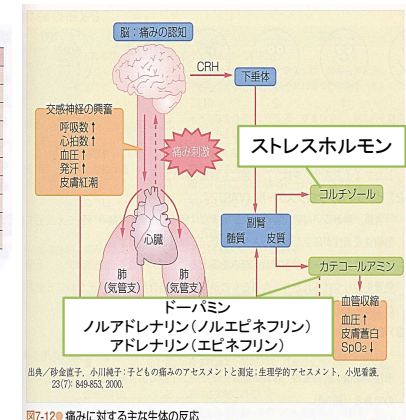
痛みのアセスメント方法:

・生理学的指標

表IV-1 痛みのアセスメントの生理学的・生化学的指標

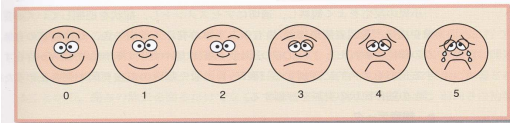
指標	反応
心拍数	増加
呼吸数	増加
血圧	上昇
経皮的酸素飽和度	低下
手掌発汗	増加
皮膚色	紅潮または蒼白
迷走神経活動	低下
頭蓋内圧	上昇
コルチゾール値	上昇
カテコールアミン値	上昇

[砂金直子ほか：子どもの痛みのアセスメントと測定—生理学的アセスメント、小児看護 23(7): 850, 2000より引用]



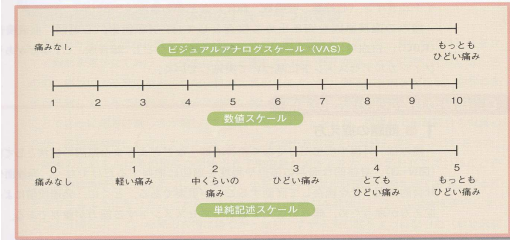
痛みのアセスメント方法:

□ 言動・表情(自己申告スケール、行動観察など)



p.161

図IV-1 ウォン・ベーカー (Wong-Baker) のフェイススケール



図IV-2 直線スケール

痛みへの薬理的対応

エムラクリーム 局所麻酔薬の皮膚透 過性を高めた外用剤

【エムラクリーム使用量の目安】
約1g(2FTU)を10cm²に塗布

1 FTUとは…
大人の人差し指の先から第一関節までの長さに出した量

0.5g 1 FTUは約0.5g

※用法用量の詳細は添付文書をご参照ください。



ポリエチレンフィルム又はフィルムドレーシング材TM等で密封し、そのまま規定時間密封状態を保つ。
注) 透明なフィルム等で、密封状態を保つもの。

皮膚に残存した本剤を清潔なガーゼ等で除去し、直ちにレーザー照射又は注射針・静脈留置針穿刺を行う。
なお、注射針・静脈留置針穿刺時の疼痛緩和に用いた場合には、本剤を皮膚から除去した後、穿刺部位を消毒すること。

年齢(月齢)	体重	最大塗布量	最大塗布時間
0~2ヶ月	-	1g	60分
3~11ヶ月	5kg以下	1g	60分
	5kg超	2g	60分
1~14歳	5kg以下	1g	60分
	5kg超10kg以下	2g	120分
	10kg超	10g	120分

エムラパッチ使用方法



<成人> 適量、成人には、レーザー照射予定部位又は注射針・静脈留置針穿刺予定部位に60分間貼付する。なお、1回あたりの貼付枚数は10枚までとし、貼付時間は120分を超えないこと。

<小児> 適量、小児等には、レーザー照射予定部位又は注射針・静脈留置針穿刺予定部位に60分間貼付する。なお、1回あたりの貼付枚数は10枚までとし、貼付枚数及び貼付時間は下表を超えないこと。

年齢(月齢)	体重	最大貼付枚数	最大貼付時間
0~2ヶ月	-	1枚	60分
3~11ヶ月	5kg以下	1枚	60分
	5kg超	2枚	60分
1~14歳	5kg以下	1枚	60分
	5kg超10kg以下	2枚	120分
	10kg超	10枚	120分



矢印のアルミフィルムの部分から剥がしてください。

薬液を含む白色の円形パッドが配着されている肌色のパッチ部分を剥がしてください。パッチの隅を押し当て密着性を高めてください。

白色の円形パッド部分を処置する部分にあわせて貼付してください。パッチの隅を押し当て密着性を高めてください。円形パッド部分は圧迫しないでください。規定時間経過後、本剤を剥がし密着に残留した薬液を清潔なガーゼ等で除去してから直ちに処置を行ってください。

なお、照射時の疼痛緩和に用いる場合には、処置の時に照射部位を消毒してください。

1. 組成

成分	販売名	エムラクリーム
成分・含量 [1g当り]	日局 リドカイン 25mg プロピロカイン 25mg	
添加剤	ポリオキシエチレン脂肪酸塩、カルボキシビニルポリマー、界面活性剤	

重大な副作用

- ショック、アナフィラキシー(過敏症等^{※1})**
ショック、アナフィラキシーをおこすことがあるので、不快感、口内異常感、発熱、眩暈、嘔吐、耳鳴、発汗、全身潮紅、呼吸困難、血管浮腫(顔面浮腫、喉頭浮腫等)、血圧低下、顔面蒼白、頸動脈異常、意識障害等の症状が認められた場合には本剤の使用を中止し、適切な処置を行うこと。
- 意識障害、昏厥、痙攣等(過敏症等^{※1})**
意識障害、昏厥、痙攣等の中毒症状があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には本剤の使用を中止するなど適切な処置を行うこと。
- メトヘモグロビン血症(過敏症等^{※1})**
メトヘモグロビン血症があらわれることがあるので、チアノーゼ等の症状が認められた場合には本剤の使用を中止し、メチレンブルーを投与するなど適切な処置を行うこと。

注1) 発熱に由来するものによるものも含む。
注2) 直接報告又は海外において認められた副作用によるものも含む。

その他の副作用

	10%以上 ^{※2}	0.1~10% ^{※3}	観察中 ^{※4}
精神神経系	頭痛	浮動性めまい、眩暈、吐瀉、頭痛	
消化器系		悪心、嘔吐	
皮膚	紅斑、蒼白	腫脹、硬結、そう痒、小水疱、発疹、蕁麻疹、接触性皮膚炎、皮膚剥離、皮膚炎、皮膚色異常	
その他	ALT (GPT) 増加	血腫、発赤、発熱、痒疹	

注1) 副作用の種類は、エムラクリーム、エムラパッチの副作用情報に記載されているとおり。
注2) 発熱以外の副作用のため、観察中。

痛みへの非薬理学的方法

環境調整、体位の工夫、支援と関係づくり、 注意転換法、マッサージ、タッチ、翫法など

ディストラクション

上から下へ、中核から抹消へ



間接照明で待合室の照度を落とす

医療者の関わりによる 子どもの情緒発達への影響

